

最大29.6ポイント差。ただ「長く勉強すれば伸びる」とは言えない

。

結論

学習時間の長い回答群ほど平均正答率が高い傾向は、平日・休日、小6・中3、国語・算数／数学で一貫して見えます。しかし、最長群が常に最高ではなく、群間差には家庭背景や既存学力なども含まれます。実務では『何時間増やすか』を先に決めず、時間、内容、計画、振り返り、負担を分け、開始前後を同じ尺度で測るべきです。

29.6pt 休日・小6算数の最大群間差	27.4pt 平日・小6算数の最大群間差	24.9pt 振り返り・中3数学の群間差
-------------------------	-------------------------	-------------------------

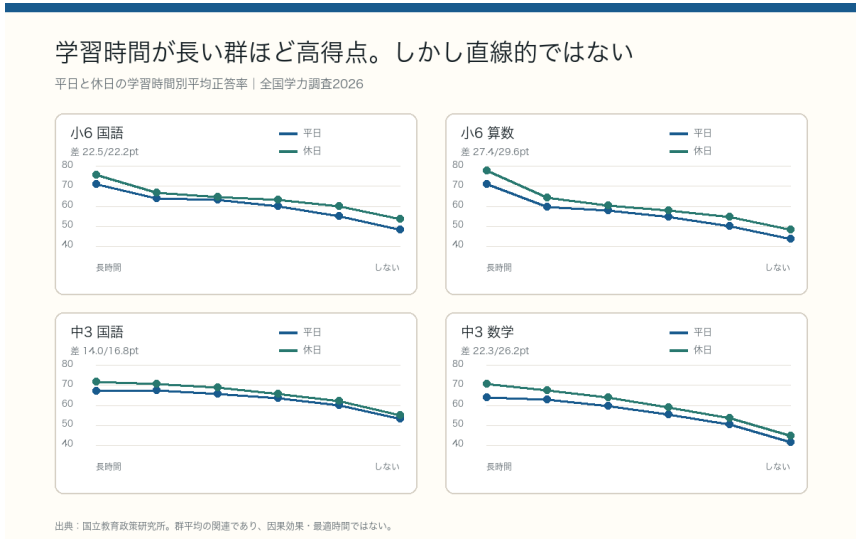


図 図1 | 平日・休日の学習時間と平均正答率。長時間群ほど高い形ですが、中3平日の最上位二群には頭打ちや逆転があります。

分かったこと

- 休日の小6算数は、4時間以上群78.0％・学習…：単純差は29.6ポイントで、今回比較した国語・算数／数学12系列のうち最大です。
- 平日3時間以上が、必ずしも最高ではない：中3国語は3時間以上群67.3％に対し、2～3時間群67.7％。
- 学習計画・振り返りでも17.2～24.9ポイン…：小6の学習計画、中3の理解の振り返りに肯定的な群ほど平均正答率が高い形です。

限界

- 個票ではなく、公表された回答群別平均の二次分析です。
- 家庭背景、既存学力、塾利用、学習内容、健康・睡眠を調整していません。
- 自己回答には記憶、社会的望ましさ、回答傾向による誤差があり得ます。

次のデータ

次は、学校・教育サービス向けに、学習時間・内容・計画・振り返り・睡眠・開始前理解度を5分で記録できる調査票と、4～8週間の前後比較設計へ落としします。

出典

国立教育政策研究所：令和8年度全国学力・学習状況調査 報告書／質問紙調査 報告書ページ／質問紙調査と学力のクロス分析 PDF